

路面標示用塗料 JIS K 5665 1種A(常温 水性系)

グリーン購入法 特定調達品目・常温型水性路面標示材

鉛・クロムフリー

  
for  
Safety Road

地球との共生がテーマです。

# ハードラインアクア#21 C-10

## ① VOC 80%削減。(CO<sub>2</sub>換算約80%相当)

従来の溶剤型路面標示用塗料と比較して、塗料中の有機溶剤(揮発性有機化合物、VOC)を80%(CO<sub>2</sub>換算)削減しました。また、地球環境の保全に貢献していきます。

## ② グリーン購入法 特定調達品目。

水性路面標示用塗料は「揮発性有機化合物(VOC)の含有量が5%以下」です。グリーン購入法 特定調達品目として、公共工事の「資材」の品目分類「塗料」、品目名「低揮発性有機溶剤型の路面標示用水性塗料」に選定されました。

## ③ 非危険物。

非危険物のため引火の危険がなく貯蔵・運搬・保管上の問題がなくなりましたので安心して、安全に作業できます。

## ④ 高視認性。

表面乾燥の調整によりガラスビーズが理想的な状態で固着しますので、長期間にわたり良好な夜間視認性を持続します。

オゾン層の破壊、地球の温暖化、酸性雨等、昨今の地球を取り巻く環境問題は、極めて大きな社会問題としてクローズアップされています。

VOC(Volatile Organic Compounds=揮発性有機化合物)は、光化学大気汚染の原因のひとつとして、アメリカやドイツでの規制法制化につづき、1991年には国連においてもVOCの排出量の低減化を目的とした「VOCによる広範囲の越境大気汚染にかかわる議定書」に日本を含む21カ国が調印しています。

弊社では、こうした時代の要求に的確に応じた「人と環境にやさしい製品づくり」をひとつの企業テーマとし、業界に先がけた研究開発により様々な分野の製品を、VOCの含有量が極めて少ない、エコロジカルな水性塗料へと段階的に転換しております。路面標示用塗料の水性化は地球規模からすると極めて小さなものかも知れませんが、こうした開発のひとつひとつの実用化によって、少しでも地球環境の保全に貢献できるものと確信しています。



ATOM<sup>IX</sup>



# ハードラインアクア#21 C-10

## 用途

区画線（中央線・外側線）、道路標示（右側部分はみ出し通行禁止線・駐停車禁止標示等）、駐車区分線、空港（滑走路・誘導路等）

路面標示用塗料 JIS K 5665 1種A（常温 水性系）

## 品質規格

試験項目	品質（JIS K 5665 1種A）	
容器の中の状態	かき混ぜたとき、堅い塊がなく、一樣になる	
密度(23℃) g/cm <sup>3</sup>	1.3以上	
粘度 KU値	70~100	
塗膜の外観	異常がない	
低温造膜性(5℃)	塗膜形成に異常がない	
低温安定性(-5℃)	変質しない	
タイヤ付着性	タイヤに付着しない	
隠蔽率 %	白	97以上
	黄色	80以上
拡散反射率(白に限る) %	80以上	
にじみ	白	にじみがない
	黄色	にじみがない
耐摩耗性(100回転当たりの摩耗減量mg)	500以下	
耐水性	異常がない	
耐アルカリ性	異常がない	
加熱残分(質量分率%)	60以上	
ガラスビーズ付着性	塗膜にむらなく付着する	
ガラスビーズ固着率 %	90以上	
塗膜中の鉛の定量(黄色に限る)(質量分率%) a)	0.06以下	
塗膜中のクロムの定量(黄色に限る)(質量分率%) a)	0.03以下	
消防法の分類 *1)	引火点を認めないこと	
揮発性有機化合物含有量 % *1)	溶媒として揮発性有機化合物を5%(質量)以上含まず、水を使用するもの	

\*1) JIS K 5665 1種Aにはない試験項目です。 a) 白については、鉛及びクロムの化合物を含有していないため、この試験は適用しない。

## 容量・色・荷姿

製品名	容量	荷姿	色
ハードラインアクア#21 C-10	14L	石油缶	白、鉛・クロムフリー黄
ハードラインアクア#21 C-10	160L	ドラム缶	白、鉛・クロムフリー黄

## 標準塗装仕様例

(ロス含む)

材料	仕様	15cm幅のライン1,000m当たり使用量
塗料		50L
ガラスビーズ		39kg

## 施工上の注意事項

- ①アスファルト面への施工について  
舗設直後に塗装しますと、軽質油成分等により塗膜が汚れる可能性があります。2週間以上の交通開放期間を経て、軽質油成分等が消滅してから施工してください。
- ②コンクリート面への施工について  
コンクリート舗装は、アルカリ分とコンクリートのレイタンス(コンクリート打設後に現れる浮遊物=あく)があるため、付着阻害を生じる場合がありますので、下記要領にて塗装してください。  
●コンクリート打設後、3週間以上の養生期間を置いてから塗装を行ってください。  
●路面清掃を徹底してください。  
●新設コンクリート舗装の場合は、#800TYプライマーを使用してください。
- ③旧塗膜(1種・2種)上の塗装について  
従来の路面標示用塗料(1種・2種)の旧塗膜上に、そのまま塗装しても問題なく付着します。但し旧塗膜が著しく劣化している場合は、旧塗膜を除去してから塗装を行ってください。
- ④旧塗膜(3種)上の塗装について  
従来の路面標示用塗料(3種)の旧塗膜は、表層が劣化しているため、付着阻害を生じる場合がありますので、下記のような塗装をしてください。  
●旧塗膜が著しく劣化している場合には、塗膜除去してから塗装を行ってください。  
●旧塗膜が健全な場合は、No.1プライマーを塗布した後に塗装してください。
- ⑤当製品は水性対応のペイントマーカー車で施工します。配管内の防錆、防食のため配管の材質をステンレスとし、当製品に対応した水性対応のペイントマーカー車が必要となります。詳細につきましては弊社取扱説明書をご参照ください。
- ⑥ペイントマーカー車で施工終了後に、皮張り防止用に水を添加しますと、スプレーパターン不良や乾燥不良になります。また、皮張り物がペイント中に洗んで、ポンプに詰まる可能性があります。ペイントタンクには、水を入れないでください。
- ⑦ハンドマーカークの塗装について  
ハンドマーカークでの施工は可能ですが、完全水性対応ではないので、保管中に配管内でゲル化・着色することがあります。ハンドマーカーク使用後は、毎日洗浄を行ってください。
- ⑧ローラー塗装について  
希釈しないでご使用ください。やむを得ず希釈する場合には水で3%以内をお願いします。また塗装用具の洗浄には水をご使用ください。
- ⑨低温(5℃以下)・高温(85℃以上)では塗装しないでください。
- ⑩降雨直後等の濡れている路面には塗装しないでください。
- ⑪凍結路面、凍結防止剤散布面には塗装しないでください。
- ⑫路面、塗装面の泥、油等は除去してから塗装してください。
- ⑬塗料はよく攪拌してからご使用ください。
- ⑭厚塗りは乾燥を遅らせ、また逆に薄塗りは耐久性が劣る原因になりますので、適正塗布量で塗装してください。
- ⑮塗装後、短期間で降雨があると、塗膜が流出することがあります。天候には充分注意してください。
- ⑯重ね塗りになった場合、1回目の塗膜が未乾燥の段階で、2回目の塗装を行いますと、乾燥が大幅に遅くなる場合があります。1回目の塗膜が乾燥してから、2回目の塗装を行ってください。

## 取扱い上の注意事項

- ①直射日光や降雨を受けない場所に保管してください。また冬期には-10℃以下での保管は避けてください。
- ②容器から出すときは、こぼれないようにしてください。もしこぼれた場合には、砂等を散布したのち処理してください。
- ③取扱い中は、できるだけ皮膚にふれないようにし必要に応じ、保護手袋、前掛け等を着用してください。
- ④取扱い後は、手洗いおよびうがいを充分行ってください。
- ⑤作業衣等に付着した場合は、その汚れを良く落としてください。
- ⑥使用後の廃棄物・廃液についての処理方法は、弊社技術資料をご参照ください。
- ⑦ハードラインアクア#21は、他の塗料とは相溶しませんので、混合はしないでください。

## 全般的注意

- ①製品ご使用の際には、当販促物の他、製品本体記載の注意事項およびSDS(安全データシート)・施工仕様書をよくお読みください。
- ②改良等のため、製品の中身、仕様、販促物の内容等は将来予告なしに変更する場合があります。
- ③当販促物に表示してあります塗り面積、仕様はあくまでも設計上の標準的な数値です。塗装の際の諸条件によって増減する場合があります。
- ④製品本体および当販促物に記載されている、定められた用途以外には使用しないでください。またご使用方法等につきましてご不明の点がございましたら、必ずご使用前に弊社にお問い合わせください。

# アトミクス株式会社

■ 道路事業部 〒174-8574 東京都板橋区舟渡3-9-6 TEL(03)3969-1552(直通) FAX(03)3968-7300

■ 営業部 〒174-8574 東京都板橋区舟渡3-9-6  
 ■ 受注センター 〒346-0101 埼玉県久喜市葛瀬町昭和沼6  
 ■ 大阪支店 〒574-0053 大阪府大東市新田旭町2-22  
 ■ 札幌営業所 〒001-0014 札幌市北区北十四条西1-2-5(三晃ビル403)  
 ■ 仙台営業所 〒982-0011 仙台市太白区長町6-8-7(ハイコートA1F)  
 ■ 新潟営業所 〒950-0982 新潟市中央区堀之内南2-19-14(総合ビル)  
 ■ 名古屋営業所 〒462-0043 名古屋北区八代町1-9(北村ビル2F)

☎(03)3969-1552(直通) FAX(03)3968-7300  
 ☎(0480)85-3111(代表) FAX(0480)85-3112  
 ☎(072)872-3111 FAX(072)872-1222  
 ☎(011)738-6070 FAX(011)738-6071  
 ☎(022)249-7371 FAX(022)249-7372  
 ☎(025)244-8011 FAX(025)244-8012  
 ☎(052)914-3900 FAX(052)916-0892

■ 広島営業所 〒739-1734 広島市安佐北区口田1丁目8-17(小夫妻ビル)  
 ■ 福岡営業所 〒812-0863 福岡市博多区金の隈1丁目33-31  
 ■ 久喜工場 〒346-0101 埼玉県久喜市葛瀬町昭和6(久喜工業団地内)  
 ■ 岡山工場 〒708-1312 岡山県勝田郡奈義町柿602-11(東山工業団地内)  
 ■ 加須工場 〒347-0017 埼玉県加須市南篠崎1-12-1(加須工業団地内)  
 ●本 社 〒174-8574 東京都板橋区舟渡3-9-6  
 ☎(082)845-2202 FAX(082)845-2203  
 ☎(092)503-5200 FAX(092)503-5308  
 ☎(0480)85-7931 FAX(0480)85-3112  
 ☎(0868)36-7000 FAX(0868)36-7010  
 ☎(0480)65-1159 FAX(0480)65-7146  
 ☎(03)3969-3111(代表) FAX(03)3968-7300